

病防第128号
平成29年2月21日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イネいもち病におけるストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）耐性菌の発生
状況及び防除対策（技術情報第11号）について（送付）

このことについて、ストロビルリン系殺菌剤（QoI 剤）耐性いもち病菌の発生状況を調査し取りまとめましたので、防除指導の参考としてご活用下さい。

記

QoI 剤耐性いもち病菌の発生は依然として続いており、今後も発生拡大を防ぐため、従来の使用制限と種子消毒を徹底する。

1 目的

平成 25 年に県内で初めて QoI 剤耐性いもち病菌（以下耐性菌）が確認され、県内での耐性菌の広がりを確認するために今年度も引き続き調査を実施した。

2 発生状況

7～10月に管内10ほ場で採集したいもち病菌について、PCR-RFLP法により耐性菌の有無を確認した結果、

- 1) 3地域3ほ場で耐性菌が確認され、耐性菌検出ほ場率は30.0%であった。耐性菌が検出されたほ場の割合は年次により異なるが、耐性菌の発生は続いている。
- 2) 耐性菌が検出された地域内には未検出のほ場もあったことから、同一地域に耐性菌発生ほ場と未発生ほ場が混在していると考えられた。
- 3) 阿蘇及び天草地域ではこれまで耐性菌の発生は確認されておらず、今年度も阿蘇地域では確認されなかった（表1）。

3 防除対策

- (1) 購入種子でも種子消毒を徹底する。
- (2) 耐性菌の発生リスクを低減させるため、QoI 剤の使用は育苗期から本田期を通じて年1回とし、QoI 剤を含有する育苗箱処理剤を使用したほ場では、出穂期前後の穂いもち防除にQoI 剤を使用しない。
- (3) 種子更新にともなう耐性菌のまん延を防ぐため、採種ほ場及びその周辺地域ではQoI 剤を使用しない。
- (4) 耐性菌を確認したことで、急速に防除効果が低下するものではないが、QoI 剤を使用したほ場で防除効果の低下が疑われる場合は、他系統薬剤を選び追加防除を行うとともに、病害虫防除所または関係指導機関に連絡する。

表1 QoI 剤耐性いもち病菌の発生状況

地域名	H26			H27			H28		
	採集ほ場数	耐性菌		採集ほ場数	耐性菌		採集ほ場数	耐性菌	
		検出	未検出		検出	未検出		検出	未検出
熊本	-	-	-	8	3	5	-	-	-
宇城	9	3	6	5	0	5	3	0	3
玉名	6	0	6	7	0	7	2	1	1
鹿本	4	3	1	6	1	5	-	-	-
菊池	-	-	-	7	1	6	2	1	1
阿蘇	2	0	2	11	0	11	1	0	1
上益城	7	3	4	11	7	4	2	1	1
八代	4	1	3	5	0	5	-	-	-
芦北	-	-	-	4	1	3	-	-	-
球磨	13	3	10	5	0	5	-	-	-
天草	4	0	4	3	0	3	-	-	-
計	49	13	36	72	13	59	10	3	7
耐性菌検出ほ場率	26.5%			18.1%			30.0%		

注1) 採集ほ場でのQoI 剤の使用の有無については不明である。

注2) 数値はほ場数を示す。



図1 葉に発生したいもち病斑



図2 穂に発生したいもち病斑
(○の褐変部分)

熊本県病害虫防除所
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所
 病害虫研究室 予察指導係)
 担当: 春山・荒木 TEL 096-248-6490